

小規模・高齢化する集落の将来を考えるヒント集

概要版

みなさんの集落では、従来から行われてきたコミュニティの共同活動を続けることが難しくなったり、空き家や耕作放棄地が増えるなど、暮らしの不安が広がっていませんか？

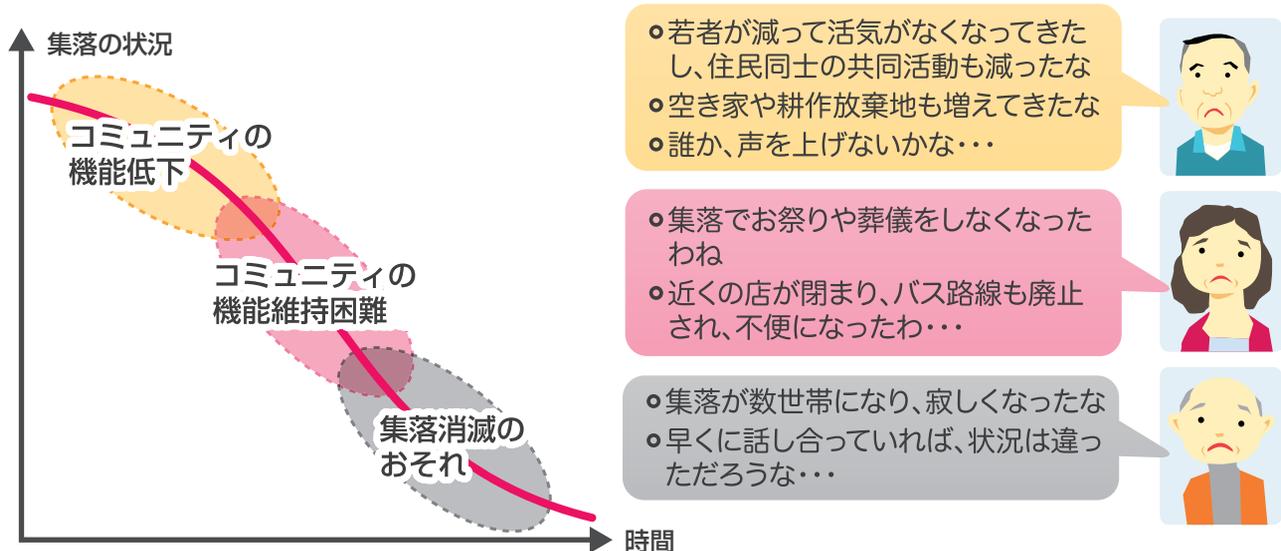
この資料は、小規模・高齢化が進む集落において、暮らしの安心を支えてきたコミュニティを維持・活性化していくために、集落の将来を見据え、「集落のかたち」を考えるためのヒントをまとめています。

集落の関係者のみなさま、地方自治体のみなさまが、集落について考え、活動される際のきっかけとして、参考にさせていただくことを期待します。

集落での暮らしに不安が広がっていませんか？

集落の状況は、小規模・高齢化が進むにつれ、気づかないうちに厳しくなっていきます。

■ 集落の状況が厳しくなっていく過程（イメージ）



集落が小規模・高齢化する中で集落の問題に向き合い、
早い段階から、みんなで集落の将来を考えてみましょう！

…詳しくは、ヒント集本編をご覧ください

(http://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/kokudokeikaku_tk3_000010.html)

この資料に関するお問い合わせ先



国土交通省国土政策局総合計画課

〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-2

電話 03-5253-8365、FAX03-5253-1570

まずは自らの集落を診断してみよう

【チェックシート】集落の状況や近年の変化に該当する項目に☑を記入してみよう。

① 集落の人材

- 1. 集落の人口が大幅に減少している。
- 2. 後継者の不足など、集落の将来について不安が増している。
- 3. 集落のリーダーとなる人材が減少している。
- 4. 集落を支援してくれる外部の組織や人材とのつながりが広がらない。

② 集落の生活利便性

- 1. 役場や小中学校など、公的なサービスを受けるのが不便になってきている。
- 2. 病院や診療所に通うのが不便になってきている。
- 3. 食品や日用品の買い物が不便になってきている。
- 4. 外出する際の交通手段（バス、電車など）が不便になってきている。

③ 集落の生業

- 1. 農林漁業など地域の中心となる産業を続けていくことが難しくなっている。
- 2. 集落やその周辺で、若者の働く場所が減少している。
- 3. 高齢者や女性が参加できる特産品づくりなどの新しい活動が広がらない。
- 4. 地域の資源を活かした観光など、地域外との交流が広がらない。

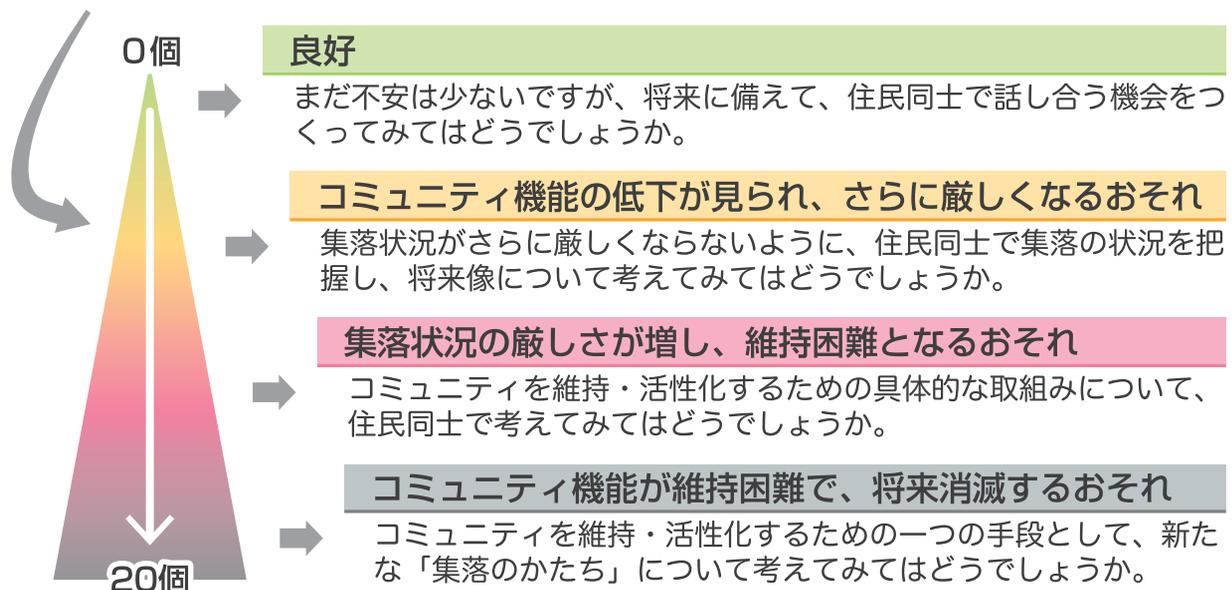
④ 集落の環境

- 1. 空き家が増加している。
- 2. 耕作放棄地や荒れた山林が増加している。
- 3. 集落の景観が悪化している。
- 4. 自然災害の被害を受ける危険性が拡大している。

⑤ 集落のつながり

- 1. 住民が集まって話し合う機会が減少している。
- 2. 道路や水路などを、住民が共同で利用・管理することが難しくなっている。
- 3. 祭りや冠婚葬祭などを、住民が協力して行うことが難しくなっている。
- 4. 多くの住民の間で集落の将来への希望が薄れ、閉そく感が広がっている。

該当項目数の合計



集落の将来について考えてみよう

小規模・高齢化が進み、集落での暮らしの不安が広がる中、気づいた時に「もっと前に何か手を打っておけばよかった」と後悔することのないよう、住民同士で集落が直面する問題に向き合い、思いを共有することが大切です。

集落生活の不安を日ごろから話し合う機会がありますか？

はい

いいえ

ステップ① 日頃からの話し合いを大切にし、 集落の現状を把握しよう

- ヒント1 住民同士が顔を合わせる交流の場を設ける
- ヒント2 集落が抱える現実の問題を直視する



花見を兼ねて、今後の集落活動について話し合おうと呼びかけたところ、多くの住民が集まり、意見交換ができました。



集落の将来の具体的なイメージを共有できていますか？

はい

いいえ

ステップ② 集落の望ましい将来像を描いてみよう

- ヒント1 将来の希望を自由に話し合う雰囲気づくり
- ヒント2 集落の資源を確認する
- ヒント3 高齢者から子ども、女性まで幅広い住民の意見を聞く



集落の将来について話し合う際、「言い出した人に責任を押し付けない」と決めると、様々なアイデアが出されました。



集落の維持・活性化に実際に取り組んでいますか？

いいえ

ステップ③ コミュニティの維持・活性化に取り組んでみよう

- ヒント1 住民が主体となって取り組む雰囲気づくり
- ヒント2 集落生活の維持・改善を図る
- ヒント3 地域資源を活用して集落の活性化に取り組む
- ヒント4 集落活動をサポートしてくれる仲間を広げたり、資金を調達する



取組みのアイデアについて誰が実施すべきかを考えてもらうことで、「まずは住民で頑張ってみて、無理なことは行政に依頼しよう」という雰囲気になりました。



集落の維持・活性化に取り組むにあたって、いまの集落では取組みの実施が困難な場合には、暮らしの安心を支える新たな「集落のかたち」について考えてみましょう！

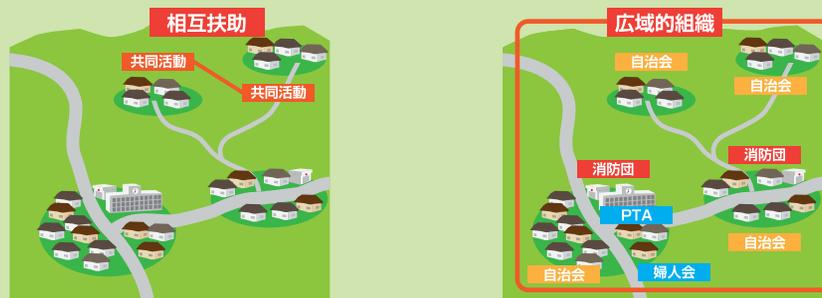
暮らしの安心を支える「集落のかたち」について考えてみよう

暮らしの安心を支えてきたコミュニティの維持・活性化を図るため、従来の集落の枠組みにこだわらず、集落の実情やみなさんの思いにあわせて、新たな「集落のかたち」を考えてみることも大切です。その手段として、様々な再生・再編の取組手法が考えられます。

小規模・高齢化で集落の共同活動を続けるのが難しくなってきた

パターン① 集落間の連携（集落間の相互扶助、新たな広域的組織づくり）

- ▷ 集落のまともりは維持した形で、他の集落と連携することで、道路や水路の管理、祭事など必要な共同活動を継続するものです。



集落で自治会や行政区の役員のなり手がいなくなってきた

パターン② 行政区等の再編

- ▷ 行政区等について、隣接する集落や大字などの広い範囲で統合することで、新たなコミュニティの枠組みを形成するものです。
- ▷ 「区長や役員の担い手がいない」といった問題が解消され、住民の負担が軽くなります。また、周辺の集落との交流が広がり、様々な共同活動を続けていくことにもつながります。



集落のつながりは維持したいけど、今のまま住み続けるのは難しくなってきた

パターン③ 集落の移転

- ▷ 自然災害の発生や集落の厳しい立地環境などにより、住民と行政が集落での生活が困難と判断した場合に、集落でまとまって移転するものです。
- ▷ 災害のおそれが少なく、通院や買い物などに便利な地域に移転することで、安全で安心な生活を営むことができます。

